

8週続いたコラムも最終回。今週は、リンクが「上場を目指さない理由」について。時節柄、売上高40億円程度の当社にも「株式公開をお手伝い」といった誘いも少なくないが、今のところその予定はない。理由は次の6つだ。

- ①先週も書いた通り当社の雇用制度は多少ゆったりめ。公開すると株価の維持・上昇が目的化し、人件費削減をはじめとするあらゆる「効率アップ」が求められる。
- ②社員を「株主」ととらえ、利益の3分の1を還元している。上場したらそれは許されない。
- ③多額の投資を受けても、まだまともな配当は出せそうにない。配当が悪ければ株価は落ちる。後はお定まりのコースだ。
- ④経営とは中長期的な成長と見返りを図るもの。短期回収狙いの投資を受け入れると、中小企業は株価に振り回されてしまう。
- ⑤インサイダー取引規制をまじめに考えると、最も重要な関係者である社員に事業計画や収支予測が話せなくなると非常に窮屈だ。
- ⑥「誰も市場は出し抜けない」という金融証券界の決まり文句はウソ。野村証券の度重なる不正、りそな銀行、村上海産、消費期限偽装騒ぎ後の英米金融資本による老舗資産の底値買収、ドイツ連銀総裁(当時)が語った9・11米中枢同時テロ直前の関連銘柄に関する不可解な取引など、国や市場管理サイドによるインサイダー情報利用と仕込みの痕跡は、それこそ数えきれないほど指摘されている。

利益循環システムを

書き出したらきりがなが上場を

## 上場を目指さない理由

目指さない理由はおおむねこんなところだ。未来永劫に公開しないと決めたわけではないが現在予定はないということである。非上場のデメリットとして大型投資能力や求人力の不足などは感じるが、急成長は能力を超える事業拡大に追い込まれる上、スタッフの教育不足ひいてはサービスの粗雑化を招く。いいことはかりともいえない。

バブル崩壊から18年。大不況と構造改革の後にやってきたのは公開トレンドともいうべき狂騒だった。が、「成功の機会を広げる」「リスク分散による健全な投資の拡大を図る」といつつ目立ったのはリスクの拡大と小規模投資の詐欺だった。必要なのは、過度の利益集中と吸い上げが抑制され、利益が適度に循環するシステムだ。

荒れ狂う「マネー」は、食料・エネルギー資源・土地・住宅といった生活基本財のみならず、効率極大化の名の下に「勤労者＝生活者」までも餌食にした。金融資本主義の大きな誤りは「賭」の対象にしているものと、そうでないものとを峻別しなかったことだと、つくづく思う。まるで大量殺戮兵器がなかった時代への回帰を願うほどにむなししいことは知りつつも。

(リンク社長 岡田元治) 〓おわり



《おかだ・がんじ》1955年京都府生まれ。横浜の全寮制、山手学院中高を経て、早稲田大学商学部卒。翻訳・編集・広告制作に従事したのち87年に広告制作でリンクを設立、社長に就任。96年富山市のイーティーワークスと共同でAT-LINK専用サーバ・サービスをスタート。専用ホスティングとして国内トップの台数を誇る。